

【東栄町は過疎化と高齢化が大きな課題です】

愛知県北設楽郡東栄町は、愛知県最東部にあります。
面積は123.4km²、うち森林が91%を占めています。
現在の人口は、3700人、中学生62名、小学生118名で50年前の
数値と比較すると大幅に減少しています。

【景観づくりのため不要な森林を 伐採します】

愛知県「あいち森と緑づくり事業」と東栄町「見通し明るく大作戦」で実施します。
美しい楽しい景観に邪魔な森林、太陽光を遮光し植物の生育を妨げる森林、見通し
を妨げ交通事故の危険性を高める森林などを伐採します。

【あと地を景観づくりします】

景観づくりは、農水省の「都市農村共生・対流総合対策交付金」で実施します。

【植樹などで景観づくり】

地域が誇る草花や町を挙げてブランド化に取り組む山菜、つつじや紅葉などの低木
を植え美しい風景を作ります。
伐採した樹木で手づくりベンチやチェンソーアートなどを置き休憩スポットにします。
川遊びや鮎釣りが楽しめる場所作りをします。
子供たちやプロジェクト参加者が記念に植樹し地域への愛着を育てます。

【地域資源を活用します】

伐採した樹木はベンチやチェンソーアートのほか、「木の駅プロジェクト」で活用し
たり、太鼓や篠笛、炭焼きなどにも活用します。



R151事業シンボルイラスト

こんな景観を作ります



【東栄町の素晴らしい資源と交流促進・ 地域資源開発による地域づくりを進めます】

800年の歴史を誇る東栄町最大の観光資源である「花
祭」は、国指定重要無形民俗文化財愛知県第1号で、
マスメディアも注目し映画化などが行われ観光客も増
加しています。

しかし、開催されるのが冬の一時期的のため、年間を通して
の継続的な交流策が課題です。

御園地区では20年前から東京都東久留米市の人たちと花祭
りを通して交流を続けています。布川地区や小林地区でも、
都市市民や学生を受け入れて「花祭交流事業」を実施し積極
的に都市との交流・花祭りの継承に取り組んでいます。

東栄町から全国に広がった「チェンソーアート（間伐材彫刻）」の全国大会が毎年開
催され都市の若者たち（邦楽集団・志多ら）が廃校となった校舎を拠点に国際的な
音楽活動を展開しています。また、こうした文化交流活動を支援する団体NPO法
人てほへも設立され、都市への情報発信・交流活動に取り組んでいます。

総務省の支援を受けて、東栄町が設置した「地域おこし協力隊」では、県外からやっ
てきた若者（女性）が就業し、東栄町の名産作りとして「山菜栽培」と山菜を使った
「石窯ピザ」の活用・開発に取り組んでいます。

古戸地区では平成20年に「古戸ひじり会」を設立し都市市民の農村体験・交流居住
事業「古戸おいでん塾」を、平成24年には地域通貨を活用した間
伐材活用事業「木の駅プロジェクト」を実施しています。

千代姫荘交流促進センターは、宿泊施設や山村料理体験施設を
活用して都市市民の受け入れに取組むとともにジビエグルメグラ
ンプリ（県主催のジビエ料理コンテスト）に出店するなど、積極的
に町外イベントにも参加しています。

こうした取組が一層発展することもR151事業のねらいです。



実施場所は、R151線が大干瀬川と並行する布川から古戸にかけて10km区間です。

現在のR151線沿いの風景です

